

宮城県気仙沼港でハイブリッド防潮堤を受注
～プレファブ製品で津波対策施設の早期整備を実現～

JFE エンジニアリング株式会社（社長：岸本純幸、本社：東京都千代田区）は、宮城県気仙沼港の津波対策として、当社開発の「ハイブリッド防潮堤」を受注しましたのでお知らせいたします。本件により「ハイブリッド防潮堤」は、岩手県の山田漁港に続いて 2 件目の採用となります。

この事業は、宮城県気仙沼港の津波対策で、既存のコンクリート防潮堤（高さ：海拔 2.0m）に変わる海拔 7.2m の高さの新防潮堤を整備するものです。当社が受注したのは、防潮堤計画の 1 期出件分となる 300m 区間の堤体製作・輸送で、2014 年 8 月頃までに工場にて堤体製作を完了し、現地に搬入する予定です。

この防潮堤は、臨海道路に沿った狭隘なエリアに短期間で設置される必要があり、当社は今回の計画に対し“占有面積の省スペース化”と“現場工事期間の最小化”の両方の条件をクリアできる「ハイブリッド防潮堤」の技術提案を進めてきました。これは鋼材とコンクリートからなるハイブリッド構造の直立型防潮堤で、盛土構造の防潮堤と比較して土地占有面積を 20% まで大幅に縮小することができます。

また、現地で基礎鋼管杭を施工している間に工場で堤体ブロックを製作（プレファブ）する工法であるため、基礎杭施工後わずか数日間で堤体と基礎を一体化することが可能で、RC コンクリート製の直立防潮堤と比較して現地工期を 60% 程度短縮することができます。

現在、被災地域では急ピッチで復旧、復興工事が進められていますが、資機材や人手不足が深刻な問題となっています。プレファブ工法の「ハイブリッド防潮堤」は、現地の作業量（資材、労務）を最小限に抑えることができるため、こうした問題に対する解決策としても注目をいただいております。

当社は今後も、東北地域の復興事業のさらなる加速に貢献してまいります。また、全国の沿岸地域の国土強靱化に向けて、最先端の技術を開発、提案してまいります。

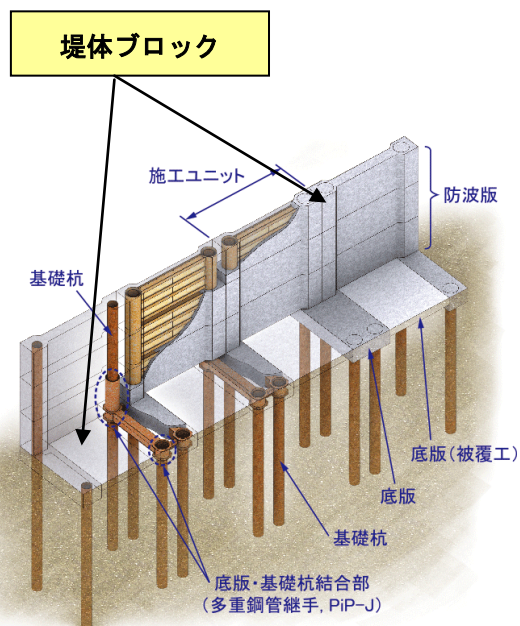
■受注工事概要

1. 発注者：宮城県
2. 工事名：気仙沼港海岸護岸外災害復旧工事
3. 工事内容：防潮堤築造工 延長 300m
5. 元請会社：(株)小野良組（地元土木工事業）
6. 当社受注範囲：堤体ブロックの製作・輸送

■ハイブリッド防潮堤の概要図



当社作成の完成イメージ図

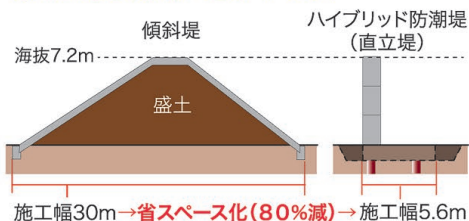


■今回の受注範囲とメリット



■ハイブリッド防潮堤採用のメリット

① 盛土堤との対比→省スペース化



② コンクリート直立堤との対比→現地工事の最小化

項目	ハイブリッド防潮堤	コンクリートの現地施工	メリット
現地工程 (日)	134	334	60%減
現地作業 (工数)	287	1,492	80%減
現地資材			
生コン(m)	380	2,160	80%減
型枠(m)	70	2,330	95%減

(防潮堤100mあたり)

本件に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

JFE エンジニアリング株式会社 総務部広報室